



2010年度 理事者の1年

2010年度理事者の任期もあと1ヶ月を残すところとなりました。今年度は司法修習生の給費制維持の活動, 財務問題に関する対応, 法律相談事業拡充のための自治体訪問, 広報充実のためのウェブサイトリニューアルの対応などの多くの課題を適切に, そして迅速に処理してこられた理事者に1年間の思い出をお願いしました(なお, 会長からは各副会長に, 副会長には1年間席を隣にされた副会長同士で一言ずついただきました)。

「水魚の思い」の実現

会長 若旅 一夫 (26期)



日弁連の歴史始まって以来の初の日弁連会長選挙の再投票が実施され, 東弁の宇都宮会員が会長となりました。国民と社会から大きく信頼を得つつあった弁護士会が, その流れを止めることなく, かつ, 会内において結束を図ることができるかが最大のテーマでした。幸い, 日弁連は, これまでの司法改革を検証しつつ, 発展的に継承する路線が示され, 新会長の下, 団結が図られ, 不可能と思われた司法修習生

の給費制一年存続が実現し, 執行部への求心力が高まりました。

日弁連の筆頭副会長としての役割に没頭できたのは, 若松筆頭副会長, 木村副会長, 上田副会長, 山田副会長, 濱田副会長, 下谷副会長の6名の副会長のおかげという他ありません。改めて, 心より感謝申し上げます。大井, 水上両監事, 常議員会の福田議長, 高田副議長及び囑託並びに職員の皆様に温かく支えられた清々しい1年でした。関係各位に心から御礼申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

若旅会長が見た 6人の副会長

若松副会長は……意外と緻密な理論家。度量が広く大尽の風格。
木村副会長は……困難に挑戦するファイター。労苦をいとわない信念の人。
上田副会長は……温和で包容力のある人格者。奥様を大切にする姿勢に感服。
山田副会長は……飄々とした脱世間の大物。懐深い品格の人。
濱田副会長は……噂とちがう常識の人。論理と文章の達人。女性にもてるので注意。
下谷副会長は……居るだけで周囲を明るくする, 心くばり抜群のアイデアマン。司会は天下一品。

1年の思い出

副会長 若松 巖 (36期)



東京弁護士会の副会長に就任した昨年4月1日から、あっという間の1年でした。振り返ってみると、昨年4月には、自分の年齢を考えずに、会長の若旅・副会長の若松のワカワカコンビ(Wヤング)と自称しておりましたが、殆ど誰からも呼ばれることなく1年を終わろうとしております。

さて、思い出となると役員や職員との四季おりおりの飲み会でしょうか。職員との飲み会が盛り上がり夜

更かしをした次の日、妻が前日は「ひとりで(妻の)誕生日のケーキを食べた」と言い出した時のバツの悪さを思い出します。

役職の面では、東京弁護士会もいろいろな課題を抱えており、解決すべき未処理案件も多数ありますが、今まで弁護士生活で味わっていた事件の深刻さとは違った「明るい悩み」といったものでした。これは本年度若旅会長をはじめ、理事者、監事の方々がいずれも明るくて、深刻な問題も明るく対応していたためだと思います。この1年の間に知り合えた役員や委員会の委員の方々及び職員との出会いを今後とも大切にしたいと思っています。

となりの副会長が見た 若松副会長

我等が筆頭副会長で全てに気を配り、ご自分の仕事以外にもいろいろご意見を言っていたが、副会長全員が大変頼りにした兄貴分でした。そのため、「若松会長」と言ってしまうことが多々ありました。それに、仕事が的確で速くさすがという感じでした。また、ユーモアもあり見た目以上に楽しい方でした。ただ、心配なことは、降圧剤を飲みながらもお酒が少々…、お身体に気をつけて下さい。心からありがとうございました。今後ともよろしく願います。(木村 雅行)

東弁財務に明け暮れた一年でした

副会長 木村 雅行 (38期)



就任早々から財務検討チームを立ち上げ財務問題に手を付けたのが始まりでした。このチームは、一般会計が大変な状態であることから会館特別会計の繰越金を使うことについての検討が目的でした。そして、私が考えた案を作成して関連委員会などに意見照会をしたのですが、全ての委員会が理事者提案には反対との回答でした。これまで、理事者会案に全委員会が反対ということは無かったようです。しかし、原案を

変更して、11月30日の臨時総会に臨み何とか予算を編成出来るような状況にはなりました。また、予算編成の時には事業仕分けをすると公言してしまったことで、予算編成も悩むことになってしまいました。しかし、東弁の財政状況について会員・事務局の皆さんに理解してもらえたことは良かったかと思っています。

副会長として、一年間楽しいことも多かった反面、大変なこともそれ以上にありましたが、貴重な素晴らしい経験をさせていただけました。関係した多くの皆さんに感謝します。

となりの副会長が見た 木村副会長

木村副会長はいつもダンディですね。また機会がある都度、職員にはやさしく声をかけてコミュニケーションをとろうとするお姿は見習うべきものがあると思っています。しかも木村副会長は、難しい東弁の人事と財政を一人で担当されてさぞお疲れかと思っておりましたが、深いため息をつきながらも難題を次々に処理されて、とてもお孫さんがおられる副会長さんとは思えない若々しいお姿でした。勉強になりました。

(若松 巖)

井の中の蛙大海を知る

副会長 上田 智司 (38 期)



副会長としての担当業務は司法修習委員会、法曹養成センター、法律相談センター、法制委員会、民訴問題特別委員会、関弁連等々。振り返れば、この1年間程多くの人と出会い、また様々な経験をしたことはないように思います。東京弁護士会が会員のため、また市民のためどれ程多くの役割を果たしていたのか、またそのため、理事者と職員がどれ程の労力を費やし

ているのかを知ることができました。日々の業務に埋没していた蛙まさに大海を知るという思いです。弁護士会が果たす役割は、法曹人口増に伴い益々大きくなり、また弁護士自治の堅持も重要な課題となると思われますが、今後とも一会員として弁護士会のために可能な限りの力を尽くしていきたいと考えています。

4月からは、また井戸に戻りますが、時々大海の潮風を懐かしく思うことでしょう。この1年間、本当にありがとうございました。

となりの副会長が見た 上田副会長

上田副会長と私は、同年生まれ、社会人経験もあり、また子どもがロースクールに通っているという共通点があります。しかし、その他は違うことばかり。まず第1に、上田副会長は、民事弁護教官の経験があり、副会長の激務にありながら、ロースクールの実務家教員の職を全うするという離れ技を遂げました。教え子が全国に300名もいるので、どこに行ってもプライバシーがなくて困るよ、とのたまわっています。第2に、酒がすごく好きで強い。体内にアルコール分解酵素を大量に貯えているので、上田副会長と酒の強さを競うのは無謀です。秋田弁で歌う「お湯かけて雪国」は秀逸で、聴いた翌日耳から離れません。第3に、大変な「愛」妻家だということです。皆で飲んでいても午後9時にはそわそわしだすシンデレラ親爺なのです。上田副会長、1年間ご苦労様でした。これからも未永く仲良く付き合ってくださいね。
(山田 正記)

疾風怒涛の1年

副会長 山田 正記 (39 期)



日々新たに生起する問題の対応に追われ、規則制定のために関係委員会等と協議を重ね、常議員会で答弁に立ち、夜の懇親会で盃を重ねるといった密度の濃い1年を過ごしました。私の担当では、広報活動の充実、強化を図るためウェブサイトのリニューアルを手掛け、マスコミの記者との懇談会の開催を重ねました。

次年度からは定例の記者会見も予定しています。また、住宅紛争の専門家相談の導入に伴う規則等を整備し、研修の講師の報酬の見直しをしました。その他、法律研究部の位置づけや会務活動等の義務化の範囲についてサミットを開催し、またパリ弁護士会との友好協定を締結しました。

積み残した課題はたくさんありますが、支えていただいた東弁事務局職員や嘱託弁護士の皆様方に心から感謝いたします。

となりの副会長が見た 山田副会長

山田副会長は、緊張した場面でも息抜きの達人であり、時々貴重な(?)駄じやれを飛ばしては理事者室を和ませてくれました。まさに大人の風格のある人です。この辛い1年を無事乗り切れたのも山田副会長のお陰と心から感謝しています。山田副会長と私の共通点はすでに山田副会長が指摘済みと思いますが、妻がB型であることまで一緒とは正に神がかり的です。弁護士会の生き字引でもある山田副会長、これからも未長くお付き合いください。
(上田 智司)

光陰矢のごとし

副会長 濱田 広道 (39期)



年を取ることには時の経つのが早くりますが、「こんなに早くていいのか?!」と驚愕しています。今年度の担当理事者としてこういうことができた、というものがないかと考えてみましたが、目の前の課題をこなすのが精一杯で、結局何もできなかったような気がしています。しかし、それはそれでよかったのだと思いたい。毎年変わる理事者は、会の日常業務を支えるのが役回りだからです。いずれにしても、無難に過ごせたのは、優

秀な職員の方のおかげであり、ここに改めてお礼を申し上げます。

任期中にしたことを一つだけ挙げるとすれば、職員人事を担当して、7人もの新規採用をしたことでしょうか。こういう年度も珍しいのではないかと思います。この方たちの成長に期待しています。

そして、この1年の大きな成果は、同期の理事者という宝物を得たことです。厳しい議論の合間にも笑いの絶えない理事者室でした。一生の記念になる、よい経験でした。まずは、4月に予定されている卒業旅行を楽しみにしています。

となりの副会長が見た 濱田副会長

人は濱田副会長を変人と言うようですが、1年間机を並べた私は、全くそうは感じませんでした。むしろ人が気がつかないことに気づき自分なりの価値観に基づき堂々と意見を述べる権威に阿ねらない濱田副会長は尊敬すべき弁護士だと思います。ただ1度だけムツとしたのは、事故に良くあたることから年末ジャンボ宝くじをたくさん購入したと自慢したとき「下谷さんの‘当たった’は悪いことだけでしょ。」と一言の下に切り捨てられたことです。冷静な分析だけが周りを幸せにするとは限りませんよ、濱ちゃん！（下谷 収）

痛みに耐えて頑張りました

副会長 下谷 収 (40期)



5月22日と11月3日に骨折しました。この歳になって顔面がパンダのようになっていたり、右腕をギブスしたりするとは夢にも思いませんでした。副会長任期の半分は、ケガしていた感じですが、若旅会長はじめ同僚理事者や優秀な事務局職員のおかげで何とか担当職務を全うできました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

私は多摩支部担当として7月下旬から8月中にかけ

て都下17市町村を訪問したり会館担当として四階受付にカラー高速プリンター・東弁専用部分に明るいカーペット・508号室に軽くて扱いやすい椅子をそれぞれ導入したりしました。他にもいろいろ仕事をさせていただきましたが、常に考えていたのは、市民と会員・東弁職員のためになることをしようという点です。次年度理事者には引き続き市民と会員へのサービスの拡充に努めていただきたいと思います。

会員の皆さんに「東弁に入ってよかった!」と感じていただけるような弁護士会になっていただきたい。それが、私の今の願いです。

となりの副会長が見た 下谷副会長

人なつこく、冗談が好きな下谷さんは、みんなから好かれるキャラクターで、うらやましく感じました。引き出しには駄菓子がいっぱい詰まっております。相談にやってくる職員に配っていましたね。その一方で、東京都内の全ての自治体を回って、法律相談の売り込みをしたり、相見積りで設備費を大幅減額させたりという活躍もしました。下ちゃんは偉い!

(濱田 広道)